

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎・基本の定着と主体的に学習に取り組む態度を育成するための指導方法の工夫と改善
- ②言語活動の充実とICTの活用を図る授業の実践

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 委員 校長（竹治 直樹） 教頭（上谷 真奈）
 教諭 松永 絵美 低学年担当（大塚 芽依、姫田 有梨紗）支援員（山田 知代）
 中学年担当（松永 絵美、三原 菜央）養護教諭（小川 美和）
 高学年担当（清水 美穂、坂東 洸、田村 拓夫）
 特別支援担当（藤川 鶴子、横田 ひびき、本多 真由美）

校長

竹治 直樹

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能は身につけており、授業には意欲的に取り組んでいる。 ●身に付けた知識・技能を他の学習や生活の場面で活用していない児童が多い。	①課題に根気強く取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ②問題や長文を読み取る力、文章を書く力を身に付ける。	①「めあて・学習活動・まとめ・振り返り」の流れによる授業ルールを徹底して行う。 ②音読やスマイルネクストを活用したドリル学習を継続して実施し、月2回以上確認テストを行う。 ③視写、詩や短文などの暗唱を学期に1回以上取り入れる。	・学習規律を再度徹底する。 ・確認テストなどで理解度を確認しながら授業を行う。	①授業ルールを確立したことで、児童は見通しを持って学習を進めることができ、落ち着いて学習することができた。 ②音読・ドリル学習・確認プリントの継続により、基礎学力が身についた。(保護者の肯定的評価 96%) ③視写、詩の暗唱など学期に1回は実施した。	・引き続き学習の流れや授業ルールの確実な定着を図るために教員間で共通理解を図る。 ・ICTを活用したドリル学習や音読を引き続き行い、確かな基礎基本の定着を図る。 ・視写や詩の暗唱などの教材の選定を1学期に行い、継続して取り組めるようにする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分が伝えたいことを進んで書いたり、話したりできるようになってきている。 ●自分の思いや考えを筋道を立てて表現することや課題解決に向けて、思考・判断することが苦手な児童がいる。	①課題に対して、理由や根拠を明確にしながら自分の思いや考えを発表したり、文章で表現したりすることができる。 ②話し合い活動等を通して、他者の意見を尊重し、自己の考えを広げ、深めることができる。	①作文や日記を書いたり、スピーチをしたりする機会を多く設定する。 ②1日1回以上、ペア・グループ学習の機会を設定したり、地域人材を活用した交流の場を増やしたりする。 ③ホワイトボードやICT機器を効果的に活用した発表や話し合い活動の時間を1日1回取り入れる。	・各学年で行った指導法などで効果的な指導方法を共有していく。 ・相手を意識して書いたり表現したりできるようにする。	①行事や各教科で書く・聞く・話す活動の機会を多く取り入れたことで、児童は発表する力がついた。(保護者の肯定的な評価 88%) ②可能な限りペア・グループ学習や地域人材を活用した交流を実施した。 ③タブレットの環境整備やホワイトボードなどを有効活用して授業を進めたことで伝える力が育った。(保護者の肯定的な評価 88%)	・考えを「書く、発表する、意見交流」の流れを意識した活動を確保し、表現力の育成を図る。 ・学校内外の交流の場を計画的に設定し、体験的活動をとまなう深い学びの実現を図る。 ・具体的方策を継続して取り組んでいくとともに、GIGA スクール構想の推進に向け研修を重ねていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題については、真面目に取り組む、宿題の提出もほぼ全員ができています。 ●自分でめあてや課題を決めて、主体的に学習することは苦手である。 ●家庭での読書量に個人差がある。	①難しいことや苦手の課題に対しても、粘り強く取り組むことができる。 ②自分で目標を立て、家庭学習や読書に取り組むことができる。 ③学んだことを振り返り、課題を解決した達成感と次への課題意識を持つことができる。	①「家庭学習の手引き」「家庭学習がんばりカード」等で目標、方法を提示し、年2回の振り返りを行う。それを元に自分の課題を見つけ、保護者と連携して、家庭学習の定着を図る。 ②朝の読書、週末読書を習慣化する。多読賞や完読賞の表彰、リーディングパディによる読み聞かせを年2回以上行う。 ③授業の導入やまとめや振り返り、またそれらを共有する場などに、1日に1回はICT機器を活用する。	・家庭学習頑張リカードで学習内容や読書時間などを振り返り、今後もさらに取り組みを徹底する。	①「家庭学習がんばりカード」で目標を達成した児童は全校で93%であった。 ②多読賞や完読賞が励みになり朝の読書、週末読書を意識して本を借りる習慣が身についた。また、リーディングパディによる読み聞かせを行い読書への意欲付けが行えた。 ③学習の「まとめ」や「振り返り」を単元に一回は必ず行い共有できた。	・自主勉強の目標を各自設定させたり、模範事例の提示・賞を設けたりするなどして意欲的に学習できるよう工夫をする。 ・与えられた課題ができた後に自分で取り組める課題(読書・自主学習やタブレットなどのドリル教材)を選択できるようにし、主体的に学習に取り組めるように工夫する。

令和5年度 学力向上ロードマップ



